

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

全日本剣道連盟設立 70 周年記念
第 70 回全日本剣道選手権大会



2022 年度 講道館杯
全日本柔道体重別選手権大会



第 37 回
わんぱく相撲全国大会





ハンガリーの日本武道史紹介



現地演武者と交流する大鷹大使
(右から2人目)



日本側に質問する現地参加者



ハンガリーの会場で
歓談する現地出席者



事業の様子はユーチューブで
生配信された



パラノビチ大使(左)と交流する神崎氏



笑顔で手を振るハンガリー側の出席者(ブダペスト)



スクリーンに向かって手を振る日本側関係者(東京・飯田橋)



ハンガリーと日本が武道で国際交流

オンラインで繋ぐ武道の心

令和4年度 日本とハンガリーを結ぶ武道文化交流事業

JAPÁN és MAGYARORSZÁG BUDÓ KULTURÁLIS CSEREPROGRAM

令和4年度日本とハンガリーを結ぶ 武道文化交流事業(オンライン)

- 【主催】公益財団法人日本武道館、日本武道協議会
- 【後援】スポーツ庁、外務省、駐日ハンガリー大使館、リスト・ハンガリー文化センター
- 【協力】在ハンガリー日本国大使館、ハンガリー国防省、ハンガリー競技スポーツ連盟、ハンガリー体育大学、ハンガリー日本友好協会、在ハンガリー日本国大使館附属ブダペスト日本人学校、国際交流基金ブダペスト日本文化センター、国際武道大学
- 【協賛】日本古武道協会



「令和4年度日本とハンガリーを結ぶ武道文化交流事業」が10月15日、両国の会場をオンラインで結んで開催された。参加した両国の武道関係者約200人は、武道演武やセミナーを通して武の絆を深めた。

日本武道館が毎年実施している日本武道代表団海外派遣事業は、新型コロナウイルスの影響で中止が続いていたが、今年は3年ぶりにオンラインを通じてハンガリーとの海外交流事業が実現した。ハンガリーにおける武道の歴史は100年以上とヨーロッパの中でも古く、現在は学校教育の中でも取り扱われるほど盛んである。現地で2000年に「NPO武道文化フォーラム」を設立し、剣道指導・研究などの活動をしている阿部哲史氏をコーディネーターに迎え、事業開催の実施に至った。

なお、本事業の交流の模様は当日、動画配信サイト「ユーチューブ」でライブ配信され、武道や日本文化に関心がある多くの人々が視聴した。



交流事業は両国の7時間の時差を考慮し、日本側は午後4時30分から、東京・飯田橋のホテル、ハンガリー側は午前9時30分からブダペスト市内の劇場を会場に始まった。両国の国歌斉唱の後、日本会場の白井日出男日本武道館理事長とパラノビチ・ノルバート駐日ハンガリー国特命全權大使、ハンガリー会場の大鷹正人駐ハンガリー特命全權大使が挨拶した。

次に日本側の演武披露に移った。事前収録した現代9武道の気迫溢れる演武が大型スクリーンに映し出されると、ハンガリー側の参加者たちは真剣な眼差しを向けていた。続いて武道セミナーとして神崎勝氏が古武道「初實剣理方一流甲冑抜刀術」の演武披露と講演を行った。

休憩を挟み、ハンガリー側から同国での日本武道史の紹介と現地の修行者による演武披露があった。日本側に引けを取らない迫真の演武に日本側の参加者たちも熱心に見つめ、演武後には大きな拍手を送った。

最後に吉川英夫日本武道館理事長・事務局長による閉会の言葉で事業は幕を閉じた。

開会式（日本・ハンガリー）



臼井日出男
日本武道館理事長



パラノビチ・ノルバート
駐日ハンガリー国特命全権大使



大鷹正人
駐ハンガリー特命全権大使

初めに臼井日出男日本武道館理事長が挨拶した。
「両国は経済交流はもとより柔道や剣道をはじめ、武道を通じて人的交流など、確かな友好関係を築き上げてまいりました。」

日本武道館はこれまで18カ国に日本武道代表団を派遣して武道の国際理解や友好親善に寄与してまいりました。今回、日本側の演武者は日本を代表する一流の指導者や選手です。現代9武道と古武道の磨き抜かれた演武を披露いたしますので、日本武道の心と技を肌で感じ取っていただきたいと思います」

続いて来賓のパラノビチ大使が「この度の交流事業が3年ぶりにオンラインで開催されることを嬉しく思います。過去50年にわたる武道交流を通じ、現在、ハンガリーの高校の教科書で日本の武道が紹介され、体育大学では武道を選択科目として学ぶこともできます。また、日本の自治体の皆様には武道大会におけるサポートやホストタウンと



開会式（ハンガリー会場）

しての受け入れをしていただき、大変感謝しております。この事業を通じてハンガリーでより武道が広まり、日本武道の人気と広がりが続いていくことに大きな期待を寄せています」と挨拶した。

以前、ハンガリーで現地の方が真剣に武道を取り組む姿を拝見し、大変感銘を受けました。また、武道教室は中央の都市だけでなく地方にも点在しており、年齢層は子どもから大人まで幅広いものとなっています。この事業が武道の発展のためにエールを送り合う素晴らしい場になることを祈っています」と挨拶した。



大型スクリーンを通して臼井理事長の挨拶に耳を傾けるハンガリー側の参加者

武道セミナー（日本）



神崎勝
初實剣理方一流甲冑拔刀術
免許皆伝

武道セミナーでは、初實剣理方一流甲冑拔刀術の演武が披露された後、免許皆伝の神崎勝氏が流派の紹介や技法について講話を行った。

■講話要旨

初實剣理方一流甲冑拔刀術は岡山を代表する古武道の流派です。流祖は今枝良台（いまえだりょうだい）といひ、正保3（1646）年に今の鳥取県倉吉市に生まれました。良台は父から家伝の今枝流剣術を学び、諸国を武者修行し、多くの流派を学びました。その後、今枝流に伝わる50本以上の技を20本に統合して経伝の内容を精査し、初實剣理方一流甲冑拔刀術を名乗ったといひます。

今から260年前、津山藩（現在の岡

山県の一部）の藩士である本郷貞富が良台の弟子である秋元甚兵衛から今枝流を学び、後に江戸へ出て初實剣理方一流甲冑拔刀術を習得しました。その後、初實剣理方一流甲冑拔刀術は津山藩で盛んに稽古され、藩の剣技とされました。

当流の特徴は技の中に複雑な作法が組み込まれて成り立っていることです。例えば、敵を倒した後、相手が苦しまないようにどとめを必ず刺しますが、これは慈悲の心です。そして、相手の死を確認して親指と人差し指で刀を挟み、血を拭ってから鞘に返します。これはどの技にも組み込まれている作法です。また、「大座」と呼ばれる独特の座り方をします。私たちは下から刀を抜き上げて立抜刀を行います。この座り方をすることで鎧を着用してもこの一連の動作をより速く行うことができます。

次に技法について解説します。技の構成は表技5本、裏技5本、陰の技5本、中段の技5本、七箇之太刀、

五箇之太刀、陽の技10本、輪刀、甲冑斬合などがあります。流派名である初實剣は、体を軸とした遠心力を利用したという意味です。速度を落とさずに刀の威力を最大限に発揮できるように計算された技です。次に理方とは道理にかなうという意味で全ての技が合理的で無駄のない動作になるように作られています。

また、我々が着用している鎧や刀は400年前から伝わるもので、重さは15〜20kgあります。筋力の衰えや体重の増加などは技に支障を来すため、日々の鍛錬を大切にし、節制などにも気を配っています。

質疑応答

Q. 深く切り込む動作があったが、どのような意味があるのか。
A. 相手も鎧を着用しているため、相手を倒し切れるように刀身に力を込めて下まで切り下げます。
Q. 稽古の頻度はどのくらいか。
A. 道場での稽古は週に1回程度です。その際は鎧などは着用しません。道場の稽古は各自が稽古をしているので、毎日の稽古は基本的に各自で行います。



神崎氏の説明を熱心に聞く参加者



真剣を用い切れ味の鋭さを披露する神崎氏。厚い鎧も真二つに両断した



現地修行者による演武を生配信

各道代表者の気迫溢れる演武



ハンガリーでの日本武道史紹介

初めに本事業のコーディネーターである阿部哲史氏が挨拶。「日本の武道は過去100年で広く海外に伝播し、その国々の文化を取り込み、さらに深い文化となっています。ハンガリーには20世紀初頭には武道が伝わっていますが、現在までさまざまな困難に直面してきました。しかしそれでも武道愛好者の情熱と誇りを持って継承されています。この事実ハンガリー社会が武道の存在意義を見いだしてきたことを物語っており、そこには歴史や文化、国民性が深く関わっています。本日は映像と実際の演武を通して日本の皆様にその事実を知っていただきたいと思います」と述べた。



コーディネーター：阿部哲史氏
(国際武道大学准教授)

続いて、ハンガリーにおける日本武道史を紹介する映像を視聴した。

■ハンガリーにおける武道（映像概要）

初めに、ハンガリーにおける武道の歴史が紹介された。

ハンガリーは1869年に日本と国交を樹立して以降、多様な分野で両国の関係は発展してきた。その中で、1905年に武道がハンガリーに伝わった。日露戦争中、外地観測船のハンガリーの将校たちが日本の船員から柔術の基本を学んだり、セメレ・ミクロシユ卿が嘉納治五郎師範に柔道の指導者派遣を要請し、講習会を実践したことで柔道が広まった。太平洋戦争後、社会主義の時代に変化してからもハンガリーでは1950年代初頭に「チエルガーンチ」という名称で柔道が普及し、57年には連盟が結成され発展した。

他の武道が伝わったのは60年代前半から70年代後半のこと。当初、政府は空手などの格闘技に危険性を感じ、活動を停止させていた。その期

間にも「日本格闘ゲームクラブ」という名称を使い、それを隠れ蓑として空手道や合気道の普及が行われた。社会主義勢力が弱まってきた80年代後半以降は政府もこれを支持するようになり、現在のように武道が普及していったと説明があった。

これを受け、ハンガリー国内の各武道連盟代表者から、それぞれの団体の活動状況や課題などが紹介された。そして、空手が2020年の学習指導要領において体育・スポーツの領域の中の護身術・格闘スポーツの分野に組み込まれ、10歳から学校の体育で実施できるようになったことが紹介された。17年から試験的に実施されていたが、学習態度や規律などの面で向上が見られ、良い反応を得たことが述べられた。

最後に武道が障がい者に与える効果についてハンガリーでの研究が紹介され、ダウン症の若者に「インクルーシブ空手」を指導した結果、対象者に良い結果を与えることが報告された。以上、ハンガリーでは武道は競技スポーツだけでなく、教育分野でも注目を集めていることを強調して、武道史紹介を締め括った。

本事業関係者の声

○松井完太郎国際武道大学学長
ハンガリーの会場で本事業に参加していた。

「ハンガリーの武道家による演武に、最初に各武道をハンガリーに伝えた武道指導者たちの『正しく伝える』という決意を強く感じました。同僚である阿部准教授（武大卒業生）が企画制作したビデオに多くの方が感銘を受けました。ハンガリーに留学中の本学大学院生の殿山祐斗君（空手道部コーチ）も本事業に参加しており、見ていて誇らしかったです。こういう人材を育成することが本学の使命だと感じました。今回の事業に現地に参加し、武道の文化的価値をいふもとは違った側面から再認識することができました」

○松丸晴美フダペスト日本人学校長
オンラインで事業を視聴した子どもたちの様子を寄せていただいた。

「保健体育科の授業で日本の武道演武を拝見しました。生徒からは柔道を『やってみたい』という声が男女とも上がりました。また、『相撲』については力士の柔軟性や自分より大きな体を投げる姿に大きな歓声が上がっていました。武道について知る大変良い機会となりました」

【日本側 演武者一覧】

- ▷柔道 福見友子（六段）、佐々木健志（四段）、和田君華（参段）、大嶋悠正（参段）、小貫紗綾子（立会者）
- ▷剣道 竹ノ内佑也（五段）、星子啓太（四段）、阿部美洸（五段）、佐藤みのり（五段）、青木孝（立会者）
- ▷弓道 増淵敦人（範士八段）、細川孝夫（教士八段）、高井幸子（教士八段）、戸部孝仁（立会者）
- ▷相撲 舛田守（八段）、長内龍（二段）、立花勇輔（三段）、五島雅治（三段）、安井和男（立会者）
- ▷空手道 三澤可奈（三段）、水上千穂（三段）、畑中彩留葉（初段）、高橋昇（立会者）
- ▷合気道 金澤威（七段位）、鈴木俊雄（六段位）、桑原将太（四段位）、有馬隼人（参段位）
- ▷少林寺拳法 村瀬晃啓（准範士七段）、川島佑斗（正拳士五段）、秋元宏介（正拳士四段）、井上弘（立会者）
- ▷なぎなた 木本佐知子（教士）、吉井和代（教士）、和田うらら（五段）、北希織（四段）、谷本良子（立会者）
- ▷銃剣道 中島克直（教士八段）、長谷川英昭（教士八段）、齋藤慎一（教士七段）、藤原考貴（教士七段）、衛藤敬輔（立会者）
- ▷初實剣理方一流甲冑拔刀術 神崎勝（免許皆伝）、坂本圭（目録）、神崎勝馬（世話代）、山本孝之（世話代）

【ハンガリー側 演武者一覧】

- ▷柔道 Kis Noémi、Mezei Dorina
- ▷剣道 Dubi Sándor、Komjáti Tamás、FarkasKitti、Waldmann Gergely
- ▷空手道 Sterek Laura、Fábián Csenge、Tóth Vanda
- ▷合気道 Gollob Szabolcs、Aranyi Zsolt
- ▷居合道 Mihalik Hunor、Stadler Gyula



ハンガリー側の会場となったアラニティーズ文化センター

国際文化となった武道の文化性を共有―本事業を振り返って

コーディネーター 阿部哲史（国際武道大学准教授）

この事業は昨年10月に日本武道館の主導で準備が開始されました。日本の武道は国際的に普及し、ハンガリーでも多くの市民に愛好されています。こうした現状を踏まえ、今回の事業では「武道はすでに日本人だけの文化ではなく、世界の人々が共有する国際文化となった。イベントでは言葉や映像、演武を通じてその現実を日本の方々にも共有していただきたい」という趣旨で準備に取り組みました。



大鷹大使（左）と阿部氏

今回の事業を通じ、武道の国際化を促進する上で日本武道館しか成し得ない事業が数多くあることを知りました。例えば、世界各地へ伝播した日本武道の発展・実態の体系的な調査、あるいは武道を自国で有効活用するために必要な基礎的な情報提供です。武道の文化性を活字や映像として世界中で共有することが武道の独自性を示す上でこれから求められると感じました。

■今回の事業の様子は後日、日本武道館の公式YouTubeチャンネルで公開する予定です。ぜひご覧ください。

全日本剣道連盟設立 70 周年記念

第 70 回全日本剣道選手権大会

村上哲彦 (愛媛) が初の栄冠



剣道日本一を決める第70回全日本剣道選手権大会（主催Ⅱ全日本剣道連盟）が11月3日、日本武道館で開催された。昨年、一昨年は無観客での開催だったが、今年はコロナ対策を徹底して3年ぶりに観客を入れた開催となった。また、今大会は連盟設立70周年の記念大会として開催され、故寛仁親王の次女である瑤子女王殿下のご臨席を仰ぎ、開会式でお言葉を賜った。

大会には各都道府県の予選を勝ち上がった63名に前回大会優勝者を加えた計64名が出場し、トーナメント方式で争われた。

決勝は愛媛県代表の村上哲彦（愛媛県警）と東京都代表の安藤翔（国士舘大教員）が対戦。メンを2本決めた村上が初優勝を果たし、瑤子女王殿下から天皇杯を授与された。



試合は全日本剣道連盟剣道試合・審判規則と同細則および主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドラインに基づいて行われた。試合時間5分、3本勝負で、時間内に勝敗が決しない場合は延長戦を行い、先に一本を取った者を勝者とした。



瑤子女王殿下から天皇杯を授与される村上選手（右）



決勝＝村上（右）が2本目のメンを奪い優勝を決めた



第1ブロック・3回戦
安藤（右）が草野からメンを奪って勝利

■第1ブロック

世界選手権大会、全国警察選手権大会で優勝経験がある安藤と前回準優勝の林田^{きょうへい}匡平（福井・福井県立丸岡高教員）に注目が集まった。

安藤は初戦で中村圭作（岐阜・笠松刑務所）と対戦。鋭いメンを2本決め、幸先良いスタートを切る。2回戦の鴨崎弘治（岡山・岡山県警）には1本目はコテ、2本目はメンを決めて勝利する。3回戦では上段の草野龍二郎（大阪・大阪府警）と対戦。試合時間3分過ぎ、草野が居着いた瞬間を見逃さずにメンを決めて勝利し、安藤が順当に準々決勝進出を決めた。

もう一方は林田が初戦、2

回戦と時間内に2本決め、危なげなく勝ち進み、3回戦で大谷昇平（福島・福島県警）と対戦。試合は先に大谷がメンを取り、林田がメンを返す一進一退の攻防となり、延長へ突入。延長では林田が注意を2回受けて反則となり、林田は無念の3回戦敗退。準々決勝には伏兵・大谷が初めて進出した。

準々決勝は安藤と大谷が対戦。試合序盤、安藤が間合を詰めると両者ほぼ同時にメンを打つ。一瞬早く安藤のメンが決まり安藤が先制する。何とか返したい大谷だがそのまま時間となり、安藤が準決勝に進出した。

■第2ブロック

優勝経験のある國友錬太郎（福

岡・福岡県警）、松崎賢士郎（茨城・筑波大院2年）に注目が集まった。

國友は1回戦を延長の末にコテを奪って勝ち上がるが、2回戦で松本和明（香川・香川県警）にメン、コテを連取されて姿を消した。一方、松崎は1、2回戦を順当に勝ち上が



第2ブロック・準々決勝
開始早々、矢野（左）が松本からコテを奪う

り、3回戦で矢野貴之（東京・警視庁）と対戦。矢野は厳しい攻めで松崎の手元が上がった瞬間に跳び込んでコテを決め、松崎を下した。

準々決勝は松本と矢野が対戦。開始早々、矢野は松本がメンに来たところをコテで抑えて先制する。その後も矢野は松本につけ入る隙を与えず試合終了。矢野が初めての準決勝進出を決めた。

■第3ブロック

前回大会優勝の星子啓太（東京・警視庁）は1回戦で山下雄輔（三重・三重県警）と対戦。延長の末、山下がコテを決めて勝利。星子は初戦敗退となった。星子を破った山下は2

◎選手の声

▽ベスト8・大谷昇平選手（32）

日本武道館での全日本選手権を目標に稽古してきました。一試合一試合集中できたのが良かったです。

▽ベスト8・松本和明選手（36）

今年が最後という気持ちで出場しました。自分の剣道に徹し、目の前の試合を楽しみながらやりました。

▽ベスト8・山下雄輔選手（33）

自分の課題としていたところを最後に打たれました。今の実力を考えると十分な成績だと思います。

▽ベスト8・中澤公貴選手（32）

同学年の安藤と試合することを目標に一戦一戦、気持ちを切りさないうちに戦いました。最後は打ち急いだところを打たれました。来年はさらに上を目指して頑張りたいです。

▽前回優勝・星子敬太選手（24）

思ったより（上段に構える相手との間合が）遠く感じました。前回以上に気持ちを入れて稽古してきましたが、勝負は甘くなかったです。

▽前回2位・林田匡平選手（28）

2試合目をいい形で終え、ここからだと思っていたのですが残念です。昨年よりいい状態で臨めていた

解説DVD付属!

香川大学副学長・教授
医学博士、剣道教士八段

山神眞一 著

役に立つ少年剣道指導法

現代の少年剣道が抱える様々な問題点に
対して、長年教育現場で培った筆者の視
点から解決の糸口を探っていく。



A5判・並製・256頁・DVD付
定価2,640円

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



第3ブロック・準々決勝
村上（左）がコテをきめて山下を下す

回戦で清家羅偉（大阪・大阪府警）、
3回戦で後藤拓真（石川・石川県警）
を破り、準々決勝に進出した。
もう一方は前回ベスト8の村上が
1回戦で実業団剣士の三雲悠佑（滋

賀・東レ）、2回戦で百田尚眞（福岡・
福岡県警）、3回戦で小倉健志（和
歌山・和歌山県警）を下し、2年連
続の準々決勝進出を決めた。
準々決勝は山下と村上が対戦。こ
の試合も延長に入るが、村上は上段
に構える山下に対し、左コテを攻め
ておいて右コテを決めて勝利。初
の準決勝進出を果たした。

■第4ブロック

初出場の池田虎ノ介（福岡・筑波
大3年）が勝ち上がった。池田は1
回戦、東京都予選で安藤を下して優
勝した宮本敬太（東京・警視庁）と
対戦。開始早々、コテを奪われるが
メン2本を奪い返して勝利。3回戦



第4ブロック・準々決勝
池田（右）が中澤からコテを取って勝利

では大会最年少、20歳の山本清吾（奈
良・日本体育大3年）と対戦。延長
の末コテを決めて勝利。準々決勝は
中澤公貴（高知・高知県警）からコ
テ2本を奪って勝利し、2回目の出
場で初の準決勝進出を決めた。

だけに、この結果は悔しいです。
▽68回大会優勝・松崎賢士郎選手（24）
悔しいの一言です。（大学同期の）
星子と決勝を戦いたかったのですが
残念です。自分の技を最後まで信じ
抜くことができませんでした。
▽67回大会優勝・國友錬太郎選手（32）
攻めてから大胆な技が出せません
でした。打てそうな機会を逃し、居
着いたところを打たれました。
▽63・65・66回大会優勝・西村英久選手（33）
（罫ぜり合いから間合を）切ろうと
思ったところを打たれて旗があがつ
てしまいました。あそこを取られる
ときついです。ただ、日本武道館で
の全日本選手権大会の舞台に立てた
ことは嬉しかったです。

準決勝①

安藤 翔 (東京) ドコ —— 矢野 貴之 (東京)



安藤 (右) がコテを決めて勝利を決める



安藤 (左) が返しドウを決めて1本目を奪う

ここまで順調に勝ち上がってきた安藤と、3回戦で第68回大会覇者の松崎を破って勝ち上がってきた矢野が対戦。ともに国士舘大卒の先輩・後輩対決となった。

開始30秒、矢野は一足一刀の間合から思い切つてメンに跳ぶ。しかし安藤はメンを見切つて返しドウを放ち、安藤が先に1本を奪った。

1本返したい矢野だが、試合巧者の安藤は矢野の焦りを見逃さない。矢野の手元が上がった瞬間にコテを決めて2本勝ち。安藤が矢野を下し、初の決勝進出を果たした。

準決勝②

村上 哲彦 (愛媛) メ —— 池田 虎ノ介 (福岡)



村上 (左) は得意のメンで池田を攻める

村上と池田、両者ともに初の準決勝進出となった。

序盤は静かな立ち上がりとなるが開始1分30秒過ぎ、村上は遠間から思い切つて跳び込みメンにいくと旗が3本上がった。試合終盤、何とか追いつきたい池田は村上の手元が上がったところで思い切つて跳び込みメンを放つが惜しくも決まらない。結局そのまま試合終了となり、村上が初の決勝進出を果たした。



池田 (左) のメンは惜しくも決まらず

決 勝

村上 哲彦
(愛媛)

メメ —

安藤 翔
(東京)

ここまでほぼ完璧な試合運びで勝ち上がってきたベテラン安藤と得意のメンを中心に一気に頂点を目指す村上の対戦。安藤は世界選手権大会、全国警察選手権大会に続き、この全日本選手権大会の優勝で3冠達成となる。

試合が動いたのは開始1分20秒過ぎ。村上が遠間から跳び込みメンに行く。安藤は反応するが村上の竹刀が一瞬早く安藤の面を捉え、村上がまず1本奪う。取り返したい安藤は2分30秒過ぎに強烈な諸手突きを放つと、村上の体勢は大きく崩れる。しかし惜しくも左にそれて決まらない。3分20秒過ぎ、安藤は再度強烈な突きを放つがこれも不十分で決まらない。そして3分46秒、またも村上の遠間からの跳び込みメンが安藤を捉えて勝負あり。自分の剣道に徹しきった村上が愛媛県勢初の栄冠に輝いた。



村上（左）が得意のメンを決めて先に1本奪う



安藤（左）の強烈な諸手突き



村上（左）が2本目のメンを奪う



愛媛県勢、初の栄冠

●優勝Ⅱ村上哲彦選手・五段（30歳・愛媛県警）



村上哲彦
（むらかみ・てつひこ）

出身地は愛媛県松山市。高校時代は柔道部で活躍。大学時代も柔道部で活躍。2017年に全日本選手権で優勝。2018年に全日本選手権で優勝。2019年に全日本選手権で優勝。2020年に全日本選手権で優勝。2021年に全日本選手権で優勝。2022年に全日本選手権で優勝。

——剣道日本一になった感想を。

「初めての日本一ですがまだ実感はありません。ただ、自分が今まで稽古してきた成果が結果として表れたことをすごく嬉しく感じています」

——愛媛県勢で初の優勝です。

「中学、高校、大学とずっと愛媛で剣道を続けてきました。愛媛出身としてこの舞台で優勝するとう強い気持ちを持って大会に臨み、それが実現できて本当に嬉しいです」

——前回大会はベスト8でした。今大会にはどのような思いで臨み

ましたか。

「昨年初めて出場してベスト8だったのですが、終わってからもっともつとこの舞台で試合をしたいという気持ちが強くなりました。何としても再びこの舞台に立つて、昨年よりも上の順位を目指したいという思いで稽古してきました。試合には自分が今までやってきたことを出し切る意識を持って臨みました」

——どんなことがこの結果に繋がったと思いますか。

「稽古以外の時間も剣道のことを考え、研究しました。それを稽古

で試して課題を見つけないという繰り返しで、あつという間に1年が過ぎました。今はユーチューブでいろいろな人の試合を見ることができるようで、いいモノを吸収するように心がけました」

——普段はどのようなことを意識して稽古しているのですか。

「不器用でいろいろな技ができるわけではないので、自分の武器であるメンで勝負するつもりでやってきました。小さい頃から真つすぐにメンを打つこと、打たれてもいいから自分から出るという稽古をしてきました」

——優勝の喜びをどなたに伝えたいですか。

「まずは両親に、そしてお世話になったすべての方々に結果を報告し、ありがとうございましたと伝えたいです」

——この経験を今後どのように活かしていきたいと思いますか。

「優勝したことは今日で忘れ、明日から次の目標に向かって頑張りたいと思います」

▽準優勝Ⅱ安藤翔選手（32）



村上選手に伸びのあるメンがあることは頭ではわかっていたのですが、間合

が近くなりすぎてしまいました。1本取られたことで、焦りが出てしまいました。気持ちを切り替えることは難しいですが、ここで腐らず、今後も頑張っていきたいです。

▽第3位Ⅱ矢野貴之選手（26）



（安藤選手は）強かったです。思い切つてメンにいったところでした。振り返さ

れてしまい、そこから雑な試合運びになってしまいました。自分の攻めが浅かったと思います。

▽第3位Ⅱ池田虎ノ介選手（21）



目の前の試合に集中し、一戦一戦自分の試合をすれば上に行けると信じてや

りました。気持ちを充実させて自分の剣道だけを心がけました。

第70回全日本剣道選手権大会

段位	出場 回数	選出県	氏 名	氏 名	選出県	出場 回数	段位
五段	初	(千 葉)	加藤 宏明	後藤 拓真 (石 川)	②	五段	
六段	初	(徳 島)	玉田 赳大	地白 允大 (北海道)	④	錬六	
五段	初	(大 分)	上村 貴弥	西村 英久 (熊 本)	⑦	錬六	
五段	②	(大 阪)	草野龍二郎	寒川 祥 (茨 城)	初	四段	
六段	⑩	(東 京)	安藤 翔	佐々木健介 (鳥 取)	初	五段	
五段	初	(岐 阜)	中村 圭作	清家 羅偉 (大 阪)	初	四段	
教七	⑧	(山 形)	川木 一也	星子 啓太 (東 京)	③	四段	
錬六	③	(岡 山)	鴨崎 弘治	山下 雄輔 (三 重)	初	六段	
四段	初	(埼 玉)	福居 義久	小倉 健志 (和歌山)	初	五段	
六段	初	(長 崎)	松尾 大樹	佐藤 大樹 (青 森)	初	六段	
五段	⑤	(福 井)	林田 匡平	足立 柳次 (埼 玉)	⑥	六段	
六段	初	(愛 知)	権丈 文生	西澤 慎也 (長 野)	初	五段	
五段	②	(福 島)	大谷 昇平	真田 裕行 (神奈川)	④	五段	
五段	初	(兵 庫)	前田 悟	百田 尚真 (福 岡)	初	五段	
錬六	⑤	(沖 縄)	上江洲貴大	三雲 悠佑 (滋 賀)	⑥	六段	
錬七	②	(神奈川)	浦川伸一郎	村上 哲彦 (愛 媛)	②	五段	
錬六	④	(静 岡)	山名 良昌	田島 純一 (埼 玉)	初	六段	
六段	⑦	(福 岡)	國友錬太郎	中澤 公貴 (高 知)	④	六段	
錬七	④	(香 川)	松本 和明	久田松雄一郎 (愛 知)	③	五段	
六段	④	(千 葉)	山本 大喜	菅野 隆介 (岩 手)	⑦	六段	
六段	③	(京 都)	合屋 龍	菅野 隆行 (兵 庫)	②	六段	
錬六	初	(広 島)	岡田 拓朗	寺島 光紀 (富 山)	⑤	錬七	
六段	初	(秋 田)	伊藤 智博	中武 剣吾 (宮 崎)	初	六段	
四段	初	(東 京)	岩切 勇磨	大平 翔士 (栃 木)	③	四段	
錬六	初	(佐 賀)	杉本 大志	宮本 敬太 (東 京)	⑤	五段	
五段	初	(北海道)	伊澤 周都	池田虎ノ介 (福 岡)	初	四段	
五段	②	(新 潟)	吉田 新	上野 敬正 (群 馬)	②	五段	
五段	②	(東 京)	矢野 貴之	川本聡一郎 (山 口)	初	五段	
四段	④	(茨 城)	松崎賢士郎	佐藤 弘隆 (千 葉)	⑦	五段	
三段	初	(島 根)	加藤 大征	千田 海 (宮 城)	③	五段	
五段	初	(山 梨)	中田 圭紀	山本 清吾 (奈 良)	初	四段	
四段	②	(大 阪)	小角 朋樹	米丸 泰史 (鹿児島)	初	六段	

第1ブロック

優勝・村上哲彦(愛媛)

第3ブロック

第2ブロック

第4ブロック

最新刊

おおぼきてるお
大保木輝雄 著

剣道 その歴史と技法

剣道の技法は個人の力量だけを問題にするのではなく、相手と自分の「間」を軸とした剣術(剣の理法への気づき)へと展開した。本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史的発展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の在り様を認識したうえで改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経てついに単行本化。

剣道

その歴史と技法

大保木輝雄

日本武道館

剣道

その歴史と技法

大保木輝雄

日本武道館

四六判・上製・516頁
定価2640円



大保木輝雄
(おおぼき てるお)

昭和24年(1949)、岐阜県生まれ。51年、東京教育大学大学院体育学研究科修了。現在、埼玉大学名誉教授。日本武道学会会長、全日本剣道連盟社会体育指導員養成講座講師。単著に『きそうスポーツ(剣道・フェンシング)』(岩崎書店)、『武の素描——気を中心とした体験的武道論』(日本武道館)、共著に『剣道の歴史』(全日本剣道連盟)、『教育剣道の科学』(大修館書店)、『剣道を知る事典』(東京堂出版)、『これならできる剣道』(スキージャーナル)、『日本武道の武術性とは何か』(青弓社)など。

目次

- まえがき
- 第一章 戦国武術から近世武芸へ
- 第一節 剣道前史
- 第二節 殺人刀・活人剣
— 技術を支える思想
- 第二章 型文化を読む
- 第一節 組太刀に託された世界
- 第二節 「型」(組太刀)とは何か
- 第三章 武芸心法論の展開
- 第一節 熊沢蕃山の剣術心法論
— 体験知から理論知へ
- 第二節 天狗芸術論
— 剣術の心法から心法論へ
- 第四章 型剣術から試合剣術(撃剣)へ
- 第一節 試合剣術(撃剣)がもたらしたものの——その効用と問題点
- 第二節 浮上する撃剣
— 身分を超えた剣士の交流
- 第三節 近代剣道のルーツ・「剣術六十八手」と千葉周作
- 第五章 撃剣から撃剣大会へ
- 第一節 講武所の開設と剣術
- 第二節 撃剣興行と春風館
— 山岡鉄舟の剣術理念
- 第三節 撃剣再興論と警視庁の剣術奨励——専門家の復活
- 第六章 撃剣から剣道へ
- 第一節 内藤高治と武道専門学校
- 第二節 正課編入運動によつてもたらされたもの
- 第三節 高野佐三郎と東京高等師範学校
- 第四節 富永堅吾と学生剣道
- 第七章 激動の時代・戦前・戦中・戦後を生きた抜いた剣士達
- 第一節 佐藤卯吉と戦後剣道
- 第二節 戦前の剣道と戦中の剣道
- 第三節 日本の伝統スポーツとしての剣道
- 第八章 剣道の復活を図った人々
- 第一節 現代剣道の出発点と剣道の理念
- 第二節 スポーツの理念と学校剣道
- 第三節 「剣道の理念」を制定
- あとがき
- 現代剣道を再考する

編集・発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <https://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158



最新刊

2022年
3月下旬刊行

剣道教士八段

なが
お
すすむ
長尾 進 著

剣道の文化誌

— 剣術・撃剣・剣道、その文化としての成り立ち —

四六判・上製・480頁・定価2640円

戦後、剣道は競技として飛躍的に発展してきた。試合での勝利を目指して努力する姿は尊いものであり、そうした面が剣道の普及・発展に貢献してきたことは確かである。一方、剣道を「文化」として捉えた場合、形（日本剣道形など）や日々の稽古の中にその価値を見出すことができる。

本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には、剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存じない方には、剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとしてぜひ一読を。



長尾 進 (ながおすすむ)



昭和33年（1958）年2月、熊本県八代市生まれ。八代市立第一中学校入学時より剣道を始める。熊本県立八代東高校を経て55年、筑波大学体育専門学群卒業。58年、筑波大学大学院体育研究科修士（体育学修士）。筑波大学体育科学系助手等を経て、平成5年、明治大学商学部助手。14年、明治大学商学部教授。20年、明治大学国際日本学部教授。現在に至る。

剣道教士八段。日本武道学会理事長。日本古武道協会常任理事。全日本剣道連盟常任理事。国際剣道連盟事務総長。

目次

第1章 剣道のはじまり

— 「剣」と「刀」をめぐる —

第2章 剣道の源流

— 剣術流派の発生と台頭、三源流と現代剣道 —

第3章 上泉信綱の事績・功績と「しない」の創案

「しない」の継承と普及

第4章 「しない」の継承と普及

— 正田景兼「廻国記」の検討 —

第5章 無刀・しないの本意と治世の剣の確立

宮本武蔵と『五輪書』

第6章 剣術道具の改良と試合稽古

しない打込稽古の発展と地域での展開

第7章 廻国修行の復活としない打込稽古の広がり

武士教育における道具着用稽古の奨励

第8章 大石進種次の事績と槍術との関係

他流研究の活発化

第9章 撃剣の集大成

撃剣実用論

第10章 幕府「講武所」と男谷信友

幕末期における撃剣・剣術の諸相

第11章 明治初期の剣術と撃剣興行

剣術・武術の復権と撃剣批判

第12章 山岡鉄舟の影響、および武徳会の設立

大日本武徳会の発展

第13章 剣道の正課編入と剣道形の制定

「剣道」の定着、団体教授法、学生剣道

第14章 競技としての隆盛、戦時下の剣道

戦後の復活と発展、剣道の将来

第15章

第16章

第17章

第18章

第19章

第20章

第21章

第22章

第23章

第24章

編集・発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3

ホームページ <https://www.nipponbudokan.or.jp>お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課までどうぞ！

TEL03(3216)5147

FAX03(3216)5158



2022 年度講道館杯 全日本柔道体重別選手権大会



女子
63
kg級

田代未来が 悲願の初優勝



男子
90
kg級

ベイカー萩秋 4年ぶり優勝

体重別の柔道日本一を決める講道館杯全日本柔道体重別選手権大会（主催Ⅱ全日本柔道連盟）が10月29・30日、千葉ポートアリーナ（千葉県千葉市）で観客を入れて2年ぶりに開催された。昨年はコロナ禍で中止となっていた。

試合は男女14階級が行われ、男子90kg級では、2016年リオ五輪金メダリストのベイカー萩秋（日本中央競馬会）が21年東京五輪出場（向翔一郎（ALSOK）とのオリンピック同士の決勝を制して4年ぶりに優勝した。女子63kg級では、東京五輪出場の田代未来（コマツ）が全5試合とも一本勝ちで初優勝に輝いた。大会は世界選手権（23年5月・ドーハ）の第1次選考会を兼ねた。



会場となった
千葉ポートアリーナ



60*級・決勝＝近藤（右）が内股で初優勝



66*級・決勝＝武岡（上）が隅返を決めた

大会は、国際柔道連盟の試合審判規程により、試合時間は4分、トーナメント形式で行われた。

男子の部（30日）

■60*級

決勝は、国士舘大3年の近藤隼斗とバルセロナ五輪71*級金メダリストの故古賀稔彦氏の次男・古賀玄暉による初対戦。両者ケンカ四つの組手争いを展開するも、決め手を欠き、ゴールデンスコア形式の延長戦に突入し、互いに投技を繰り出し激しく攻め合う。延長5分過ぎ、近藤が相手の両襟を取っての内股が技ありとなり、9分を超える熱戦を制して初優勝に輝いた。

●60*級優勝Ⅱ近藤隼斗（国士舘大）

「優勝できて本当に嬉しいですね。（決勝相手の）古賀選手とはこれまで対戦したことはありませんでしたが、絶対に勝って自分をアピールしようと臨みました。（12月の）グラندスラム東京では、前を走る高藤直寿選手、永山竜樹選手を倒して、24年のパリ五輪を目指したいです」

■66*級

決勝は武岡毅（パーク24）と東海大付属高3年の服部辰成の対戦。開始1分半過ぎに武岡が右の釣り手をしっかりと引き込みながら隅返を決めて優勝を飾った。

●66*級優勝Ⅱ武岡毅（パーク24）

「結果を残さないとランクが上の選手と戦えません。面白い柔道はできませんが、一つ一つ攻めて泥臭く勝つのが自分の柔道。グラندスラムでは上の3人の日本選手に自分の柔道がどれだけ通じるのか試してみたいです」

■73*級

リオ五輪と東京五輪2連覇の大野将平が出場を見合わせる中、決勝に勝ち上がったのは大吉賢（了徳寺大職）と古賀稔彦氏の長男・古賀颯人（慶應義塾高職）。ともに日体大出身の手の内を知り尽くした2人で大吉が古賀の1学年下にあたる。開始早々、勝負に出た大吉が隅返を繰り出しそのまま流れるように腕挫十字固を決め、古賀が負けを宣言。試合時間23秒、電光石火の勝利を決めた

大吉は畳を降りると抑えきれず男泣きした。

●73^キ級優勝Ⅱ大吉賢（了徳寺大職）

「私の柔道人生は2位ばかりでした。全国大会で初めて優勝できました。やっと日本一になりました。これからは世界一を目指したいです」

81^キ級

決勝は小原拳哉（パーク24）対日本大学3年の北條嘉人。中盤に小原は隅返を決めるも、ビデオ判定によって宣告を取り消された。しかし、

小原に動揺は見られず果敢に攻める。試合終了間際に北條が指導3を受け、反則負け。小原は連覇を達成し、顔を引き締めた。

●81^キ級優勝Ⅱ小原拳哉（パーク24）

「81^キ級はグラウンドスラムの代表3枠が決まっていたので残る1枠を勝ち取るには優勝しなければいけないというプレッシャーがありました。今大会は自分との戦いでした。自分の強みは相手の強さです。グラウンドスラムでもそれを生かして戦っていきたいです」

90^キ級

決勝はリオ五輪覇者のベイカー茉秋と東京五輪混合団体で銀メダルの向翔一郎が対戦。指導2を取られたベイカーは、向が隅返を出したところですかさず横四方固に出た。ベイカーはがつちりと組んで、起死回生の一本勝ちを収め、4年ぶりの優勝を果たした。

●90^キ級優勝Ⅱベイカー茉秋（日本中央競馬会）

「リオ五輪の後は、ケガや成績不振など、辛いことが多くありました。



73^キ級・決勝=攻める大吉（手前）



81^キ級・決勝=小原（下）による隅返

90^キ級・決勝=寝技に持ち込むベイカー（奥）



その中でも多くの人々に支えられて、諦めずに柔道と向き合っていてきました。再び優勝台に立つことができて本当によかったです。まだまだ追う立場です。引き続き優勝を目指していきます」

100キ級

東京五輪金メダルのウルファロン（了徳寺大職）は1年3カ月ぶり

の実戦だったが、準決勝で植岡虎太郎（天理大4年）に反則負けで敗れた。決勝は植岡とグリーンンカラニ海斗（日本体育大3年）の学生対決。何度も得意の背負投で攻める植岡。最後も植岡が相手に潜り込みながら背負投で技ありを奪取。優勝を決めて笑顔が溢れた。

●100キ級優勝Ⅱ植岡虎太郎（天理大）「素直に嬉しいです。自分には背負



100キ級・決勝=植岡（手前）は背負投で技ありを奪取した

100キ超級

投しかないのです、最後まで背負でいきました。グランドスラムは私にとつて初めての国際大会です。思いつきり頑張りたいです」

決勝は高橋翼（国士舘大3年）と東京五輪出場の前沢久喜（長府工業）の初対決。高橋は準決勝で21年選手権者の太田彪雅（旭化成）を縦四方固で破っている。序盤は前沢が奥襟を取って組手争いで有位に攻めるも、延長に入ると前沢が崩れたところを高橋が得意の寝技に持ち込む場面が多くなる。最後は、四つん這いになった前沢を高橋が足を絡めてひっくり返し、縦四方固で一本を決めて初優勝を飾った。

●100キ超級優勝Ⅱ高橋翼（国士舘大）

「国士舘の仲間たちの応援がきつい場面で力になって助けられました。自分の特技は寝技です。決勝では前沢選手の隙を見逃さずに寝技に持ち込みました。目標は24年のパリ五輪です。同じ階級で同じ国士舘の斉藤立選手に近づき超えられるように頑張りたいです」

100キ超級・決勝=寝技に持ち込もうとする高橋（上）



女子の部 (29日)

■ 48^キ級

決勝は立川莉奈（福岡県警）と修徳高3年の宮木果乃の対戦。立川は隅返を軸として攻勢をかける。延長1分過ぎに宮木が指導3を受け、立川が相手の反則負けにより勝利。2年ぶり2回目（連覇）の優勝を飾った。



48^キ級・決勝＝果敢に攻める立川（手前）

■ 52^キ級

決勝は大森生純（帝京大4年）と横田ひかり（佐久長聖高3年）の対決。払腰で何度も攻める大森。延長1分過ぎに横田が指導3を受け、大森が勝利した。



52^キ級・決勝＝大森（左）の払腰

■ 57^キ級

決勝は22年アジア選手権優勝の玉置桃（三井住友海上火災）と東京五輪銅メダルの芳田司（コマツ）による対決。同年代で互いに手の内を知り尽くした両者は熾烈な組手争いを繰り広げる。その中で玉置は先に技を繰り出し攻勢をかける。玉置指導1、芳田指導2で延長へ。最後は両者に指導が入り、指導3となった芳田の反則負けによって玉置が優勝した。



57^キ級・決勝＝玉置（右）が芳田との対決を制した

好評発売中!

柔道の歴史を振り返りつつ、その技法がどのように形成されたのかを、わかりやすく解説。

柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂良明 著



四六判・上製・330頁・定価2,640円

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



63^キ級・決勝＝足技で攻める田代（左）

●57^キ級優勝Ⅱ玉置桃（三井住友海上火災）

「芳田選手には絶対に勝つという気持ちで畳に上がりました。先手必勝だと思い、先に先に技を出していきしました。来年の世界選手権代表を目指して一つ一つの大会で勝っていきたいです」

■63^キ級

決勝は東京五輪代表の田代未来（コマツ）と渡邊聖子（警視庁）の対決。田代は今年1月に右膝を負傷し手術を受け、1年2カ月ぶりの復帰戦となった。

左で奥襟を掴み攻める渡邊に対しそれを凌ぐ田代。延長2分半、田代は大外刈を仕掛け、堪える渡邊を押し倒し、そのまま横四方固を決めて勝利。田代は全5試合を一本勝で決め、初優勝に輝いた。

●63^キ級優勝Ⅱ田代未来（コマツ）

「ケガで苦しみましたが、たくさんの人々に支えられ、この舞台に帰って来られたのが嬉しいんです。辛いこともたくさんあつて、やめたいなと思う時もありましたが、どうしても諦めきれずに、リハビリなど目の前のことをコツコツやってきました。負けてもおかしくない内容だったの



70^キ級・決勝＝攻勢をかける桑形（左）



78^キ級・決勝＝大外刈を仕掛ける高山（左）



78^キ超級・決勝＝崩上四方固を決める秋場（上）

でまだまだ稽古が必要です。一つ一つ頑張っていきたいです」

70^キ級

決勝は桑形萌花（三井住友海上火災）と宇野友紀子（JR東日本）の対決。終始、桑形が組手争いを制する。最後は宇野が離れた状態から相手に抱きついて投げようするベアーハグの指導を受け、指導3で反則負け。桑形が初優勝を飾った。

◎70^キ級優勝Ⅱ桑形萌花（三井住友海上火災）

「何が何でも勝とうと思いました。一番立ちたい所に立ててよかったです。直近の大会では成績が伸び悩んでいました。今回は自分の強みを出せたと思います。これからもパリを目標して頑張っていきたいです」

78^キ級

決勝は高山莉加（三井住友海上火災）と泉真生（コマツ）の対決。延長に入り、互いに技を繰り出し一進一退の攻防を展開する。延長4分前、泉の体勢が傾いたところで高山が大外刈を仕掛けて技ありを奪う。8分近くに及ぶ熱戦を制して高山は

2連覇を達成した。

●78^キ級優勝Ⅱ高山莉加（三井住友海上火災）

「決勝の最後はどっちが指導を受けてもおかしくありませんでした。運で勝てたのだと思います。78^キ級には私の上に濱田尚里選手と梅木真美選手がいるので、一つ一つの試合で勝って頂点を目指したいです」

■78^キ超級

決勝は、秋場麻優（ALSOK）と児玉ひかる（東海大4年）の対決。延長3分過ぎに秋場が児玉を崩してそのまま崩上四方固を決めて勝利。4年ぶり2回目、涙の優勝を飾った。



熱戦が繰り広げられた講道館杯

●78^キ超級優勝Ⅱ秋場麻優（ALSOK）

「約1年間、病気やケガで試合に出られず、強化選手を外れてしまいました。それでも関係者の方々の支えがあつて再び優勝でき、本当に嬉しいです。この優勝をグランドスラム、そしてパリ五輪に繋げていきたいです」

◆金野潤全日本強化委員長

「オリンピックの金メダリストと言えど負けてしまうほど、講道館杯はハイレベルな大会。代表選手は後からすぐ追いかけてくる選手がいることを肝に銘じてほしい。ハイレベルな競争原理が成り立つ国内の状況をこれからも作っていききたい」

●鈴木桂治全日本男子監督

「今大会では、ベテランの活躍と共に学生の活躍が目立った。社会人の代表選手にとってもいい刺激になると思う」

●増地克之全日本女子監督

「若手とベテランが活躍した大会だったと思う。高校生の活躍も目見ていた。28年ロサンゼルス五輪も見据えて思い切った試合をしてほしい」

【大会結果】

◆男子	優勝	2位	3位
100 ^キ 超級	高橋 翼（国士舘大）（初優勝）	原沢久喜（長府工産）	中野寛太（天理大） 香川大吾（ALSOK）
100 ^キ 級	植岡虎太郎（天理大）（初優勝）	グリーンカラニ海斗（日本体育大）	ウルファロン（了徳寺大職） 神垣和他（京葉ガス）
90 ^キ 級	ベイカー-茉秋（日本中央競馬会）（4年ぶり2回目）	向翔一郎（ALSOK）	海堀陽弥（日本体育大） 田嶋剛希（パーク24）
81 ^キ 級	小原拳哉（パーク24）（2年ぶり3回目）	北條嘉人（日本大）	丸山剛毅（泰山学舎） 釘丸将太（パーク24）
73 ^キ 級	大吉 賢（了徳寺大職）（初優勝）	古賀颯人（慶應義塾高教）	吉田優平（自衛隊体育学校） 田中裕大（国士舘大）
66 ^キ 級	武岡 毅（パーク24）（初優勝）	服部辰成（東海大相模高）	浅利昌哉（神奈川県警） 相田勇司（ALSOK）
60 ^キ 級	近藤隼斗（国士舘大）（初優勝）	古賀玄暉（旭化成）	福田大和（比叡山高） 青木 大（パーク24）
◆女子			
78 ^キ 超級	秋場麻優（ALSOK）（4年ぶり2回目）	児玉ひかる（東海大）	稲森奈見（日本エースサポート） 高橋瑠璃（山梨学院大）
78 ^キ 級	高山莉加（三井住友海上火災）（2年ぶり2回目）	泉 真生（コマツ）	和田梨乃子（パーク24） 池田 紅（東海大）
70 ^キ 級	桑形萌花（三井住友海上火災）（初優勝）	宇野友紀子（JR東日本）	田嶋由佳（帝京大） 西願寺里保（コマツ）
63 ^キ 級	田代未来（コマツ）（初優勝）	渡邊聖子（警視庁）	山口葵良梨（国士舘大） 立川 桃（東海大）
57 ^キ 級	玉置 桃（三井住友海上火災）（3年ぶり2回目）	芳田 司（コマツ）	大森朱莉（帝京大） 高野綺海（日本エースサポート）
52 ^キ 級	大森生純（帝京大）（初優勝）	横田ひかり（佐久長聖高）	前田千島（三井住友海上火災） 武田亮子（コマツ）
48 ^キ 級	立川莉奈（福岡県警）（2年ぶり2回目）	宮木果乃（修徳高）	吉岡 光（東海大） 渡邊愛子（東海大）



6年生決勝＝管間（左）が押し出して勝利

第37回わんぱく相撲全国大会 管間奏心（JCI 鹿屋・6年生）、竹嶋章太郎 （大阪 B・5年生）、永田逸樹（山口県選抜・4年生） がわんぱく横綱に輝く

日本相撲連盟と東京青年会議所が共催する第37回わんぱく相撲全国大会は10月29・30日、東京都墨田区の国技館で開催された。大会には全国173地区の予選を勝ち上がった小学4～6年生の「わんぱく力士」総勢291名（各学年97名）が出場した。試合は学年別の個人戦をトーナメント方式で行い、学年ごとに横綱1名、大関1名、関脇2名、小結4名を決定した。選手たちはわんぱく横綱の座を目指し力強い戦いを繰り広げた。

また、各選手の所属チームを対象に、個人戦の合計ポイントを競う団体戦では、熊本選抜Aが優勝を飾った。

6年生

準決勝第1試合は管間奏心（JCI 鹿屋）と渡辺暖日（千葉選抜）の対決となった。管間が素早い動きで渡辺を振り回し、寄り倒しで勝利。

第2試合は大手星来（熊本選抜A）と斎藤煌生（岩手）の一戦。大手が低い姿勢で入ってきた斎藤を引き落として勝利し、初優勝を狙って決勝へ。

▼決勝

菅間奏心 ○押し出し 大手星来

前回大会で関脇の菅間と大関の大手という実力者同士の顔合わせ。観客がこの日一番の注目を向ける中、立合いとともに激しくぶつかり合う両者。菅間は低い姿勢から大手を押し上げる。大手も堪えようとするが、菅間の力強い押しに土俵際に追い込まれる。菅間は満身の力を振り絞って大手を押し出して勝利。見事、最後のわんぱく相撲で念願の初優勝を飾った。

◎6年生横綱Ⅱ菅間奏心選手



(JCー鹿屋)

「優勝するとはあまり思ってい
ませんでした。」

決勝の大手選手

はこれまで九州の地区大会で対戦したことがありましたが、今年に入るまでなかなか勝てなかったので、嬉しいですね。相撲は3歳から始め、得意技は押しです。好きな大相撲の力士は大栄翔で、自分が目指す取り方をしているからです。将来は大相撲で横綱として活躍したいです」

5年生

準決勝第1試合は竹嶋章太郎（大阪B）と岸田幸之輔（大阪A）の同郷ライバル対決となった。土俵際へ岸田を何度か追い込む竹嶋。岸田は堪えようとするも、竹嶋が掬い投げを決めて勝利。

続く第2試合は大貫夏陽（かしわ）と山城真優（オキナワ）の対戦。試合は開始からわずか2秒、大貫が思い切って前に踏み込んで山城を押し倒して勝利。決勝へ駒を進めた。

▼決勝

竹嶋章太郎 ○突き落とし 大貫夏陽

昨年の大会でベスト8に入った竹嶋と昨年の大関の山城を倒して勝ち上がった大貫の一戦。立ち合い、低い姿勢から突き上げる大貫。竹嶋はそれを躲し、大貫を抱え込んで、突き落とすも、勢い余って自分も前に飛び、両者ほぼ同時に倒れ込む。審判は大貫に軍配をあげたが審判団から物言いがつき、先に大貫が土俵に落ちたと判定が覆り、竹嶋の勝利。嬉しい初優勝となった。



5年生決勝＝竹嶋（上）が突き落として大貫を破り、優勝を決めた



4年生決勝＝永田（左）が強く押し出して勝利

◎5年生横綱Ⅱ竹嶋章太朗選手



（大阪B）

「準決勝で対戦した岸田選手は大阪府大会で負けた相手だった

ので、絶対勝つという強い気持ちで挑みました。決勝は正直負けたかなと思いました。勝ったとわかった時はめちゃめちゃ嬉しかったです。相撲は幼児の大会に出たのをきっかけに、以来、教室には通わず独自で取り組んでいます。今はラグビーや野球もやっているのですが、どの種目も満遍なくこなしていきたいです」

4年生

準決勝第1試合は永田逸樹（山口県選抜）と林祐磨（熊本選抜A）の一戦。永田は林のバランスが崩れたところを引き落として勝利。

第2試合は山口隼瑠（熊本選抜B）対岩本大和（加古川）。試合は山口が何度も土俵際へ追い込まれるも、上手く躲（か）して網打ちで岩本に勝利して決勝へ。

▼決勝

永田逸樹 ○押し出し 山口隼瑠

本大会予選から強い押し相撲を展開してきた永田と、素早い動きで勝ち上がってきた山口の一戦。立合いと同時に低い姿勢から一気に攻める山口。しかし、永田がこれをいなし、山口を土俵際へ追い詰め、力強く押し出して勝利。試合後には嬉し涙を見せた。

◎4年生横綱Ⅱ永田逸樹選手



（山口県選抜）

「最初は優勝するとは思ってなかったですが、ベスト8に入ったことで自信が湧いてきて、優勝できました。相撲は今年の5月から始め、今まで大きな大会に出場したことはありませんでしたが、相撲を取るのを楽しんでいます。他に柔道をやっていて、今後はそっちをメインにやりたいですが、今後可能なら相撲の大会にも出たいと思っています」



団体戦優勝＝熊本選抜 A



各学年の横綱。(左から)竹嶋(5年)、管間(6年)、永田(4年)

大会結果

▽6年生

横綱＝管間奏心(JCI鹿屋)

大関＝大手星来(熊本選抜A)

関脇＝渡辺暖日(千葉選抜)、斎藤

煌生(岩手)

小結＝武甕大悟(京都、乗本匠(岐

阜)、水野大地(神奈川C)、

中村圭佑(長野県A)

▽5年生

横綱＝竹嶋章太郎(大阪B)

大関＝大貫夏陽(かしわ)

関脇＝岸田幸之輔(大阪A)、山城

真優(オキナワ)

小結＝ニヤムオチル・トゥブシンボ

ルド(上越)、林優心(熊本選抜

A)、チルゲン・テムジン(モ

ンゴルB)、佐々木陽希(秋田

▽4年生

横綱＝永田逸樹(山口県選抜)

大関＝山口隼瑠(熊本選抜B)

関脇＝林祐磨(熊本選抜A)、岩本

大和(加古川)

小結＝藤垣心之介(名古屋)、古賀

尚輔(中野区)、兵頭竜ノ助(愛

媛)、高橋奏吉(城下町延岡)

▽団体戦

1位＝熊本選抜A

2位＝熊本選抜B

3位＝大阪B

日本武道館発行 単行本のご紹介

相撲 その歴史と技法

東京大学大学院
法学政治学研究科教授

新田 一郎 著



四六判・上製・422頁・2,640円

相撲の成立から現状を経て将来像へ

相撲の成り立ちから、現代相撲の基本的な条件が整うまでの歴史の概略をたどり、相撲技術の歴史的な変遷について概観する。

「相撲はどこから来たのか、相撲とは何か、相撲はどこへ行くのか」を問う。



(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部 〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147
https://www.nipponbudokan.or.jp/ FAX 03-3216-5158

全日本ナショナルチームの岩本衣美里選手が 特別支援学校で模範演武を披露

中学校武道授業（空手道）指導法研究事業

令和4年度中学校武道授業（空手道）指導法研究事業（主催Ⅱ日本武道館、全日本空手道連盟、日本武道協議会、協力Ⅱ大阪府立摂津支援学校、後援Ⅱスポーツ庁）が10月31日、大阪府立摂津支援学校（摂津市）で研究者9名、研究協力者4名、同連盟事務局2名が参加して実施された。

研究事業では、全日本ナショナルチーム強化選手で「KARATE1プレミアリーグ」優勝3回の岩本衣美里選手が研究協力者として参加し、生徒に圧巻の形演武を披露した。

初めに、大阪府立摂津支援学校の藤井雅乗校長が挨拶。開講式では、日下修次全日本空手道連盟顧問と和田健日本武道館振興課長、研究者を代表して小山正辰研究者が挨拶した。

その後、体育館に移動し、研究協議（1）「特別支援学校における空手道授業指導法について」として授業を視察した。松崎和繁研究協力者から、空手道の形について説明があった。続いて、生徒たちを前に岩本衣美里選手がアーナンの演武を披

研究協力者の岩本選手（左）によるアーナンの形演武

露。激しい動きとともに発せられる大きな声や音に驚く生徒もいたが、真剣な眼差しで最後まで演武を見届けると、大きな拍手が沸き起こった。演武後、松崎研究協力者の指導の下、生徒たちは突き・受けを練習した。その際、左右色違いの手袋を着用することで、視覚的にわかりやすく、基本動作の練習がスムーズに進むという工夫がなされていた。その後、軟かいミットを使つての突き・蹴りの練習、プールのスティック（発



太田研究協力者（左）と生徒が互いに礼を行う



松崎研究協力者（右）による左右色違いの手袋を着用しての突き・受けの練習

【研究者一覧】

■研究者

- ・ 日下修次（全日本空手道連盟顧問）
 - ・ 小山正辰（森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール校長）
 - ・ 石川周亨（全国中学校空手道連盟会長・北海道ニセコ町立ニセコ中学校教頭）
 - ・ 豊嶋建広（麗澤大学特任教授）
 - ・ 井下佳織（麗澤大学准教授）
 - ・ 野中史子（高知市立潮江中学校主幹教諭）
 - ・ 松原光（松韻学園福島高等学校校長）
 - ・ 佐藤彰（全国高等学校体育連盟空手道専門部・神奈川県立平塚工科高等学校教諭）
 - ・ 中村武志（群馬県太田市立世良田小学校教諭）
- ### ■研究協力者
- ・ 松崎和繁（兵庫県立武庫荘総合高等学校主幹教諭・生徒指導部長）
 - ・ 岩本衣美里（株式会社クリーンコーポレーション）
 - ・ 浅井一人（東京都立白鷗高等学校附属中学校特別支援教室専門員）
 - ・ 太田熊野（富山県立富山総合支援学校教諭）

（敬称略・順不同）

泡ポリエチレン製）を使つての受けの練習が、怪我のないよう安全面を配慮しながら行われた。

続いて、松崎研究協力者が「決して人に向かって突いたり蹴ったりせずに、空手道で優しい心を育んでほしい」という内容の講話を行った。最後に、曲に合わせて「基本形一」や基本動作を反復する「パプリカラテ」を行い、授業が終了した。

午後からの研究協議（2）は、「特別支援学校における空手道授業の実践事例について」として、摂津支援学校の藤井校長と空手道授業を担当している大西弘祐摂津支援学校教諭が授業計画と振り返りを発表。続いて浅井一人研究協力者、太田熊野研究協力者が実践報告を行った。

続く研究協議（3）「特別支援学校での空手道授業における課題と今後の取り組み」では、軽度と重度の知的障がいのある生徒がいた場合の授業内容について協議を行い、研究協議（4）「各研究者からの報告事項について」をもって研究協議が終了。閉講式を行い、全日程が終了した。

（文責・日本武道館振興課）

●生徒の前で演武を終えて

岩本衣美里研究協力者



「演武を見ることに集中してくれて嬉しかったです。生徒たちがモチベーションを上げて授業に取り組めたのなら、やってよかったと思います。授業後、空手道に興味を持ってくれた生徒が話しかけてきてくれたことも嬉しかったです。重度の知的障がいがある生徒の前で演武をしたのは初めてですが、空手道は、そういった子どもたちにとっても一つの可能性を提供できるのではないかと感じ、これからの空手道の発展に期待が膨らみました」



好評発売中

漫画家 田代しんたろう 著

マンガ・日本武道風土記

(上・下巻)

マンガ・日本武道風土記 (上巻)

田代しんたろう



上巻 B5判・248頁・定価 1100 円

マンガ・日本武道風土記 (下巻)

田代しんたろう



下巻 B5判・248頁・定価 1100 円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の史料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。

遠くへ足を運べない今、マンガの世界で日本各地を巡ってみては。

田代しんたろう

(たしろ しんたろう)



本名、田代為寛（ためひろ）。昭和23年（1948）東京都大田区生まれ。2歳から10歳までの間、大阪千里山で過ごす。都立小山台高校在学時に『ガロ』入選作品「宇宙の出来事」でデビュー。早稲田大学漫画研究会及び早稲田大学政治経済学部卒業。ファミリー四コマ漫画誌などにほのぼのムードの作品を執筆。ルポ漫画、地方分権・選挙法など行政啓発冊子、地方自治アニメビデオ等多数制作。平成20年4月より、別府大学文学部国際言語・文化学科教授。主な著書は、『まんがで学習 漢字事典 五年生』（あかね書房）、『マンガ・武道のすすめ』（日本武道館）、『まんが漢字ランド』（日本武道館）、『きょうはなんの日 365日事典』（あかね書房）、『まんが子どもなんでも相談室1なやみの笑顔』（小峰書店）、『我がまち川口・再発見』（川口市）など。日本漫画家協会会員、日本マンガ学会会員。

上巻目次

- 第1章 柔道のまち・久慈と三船十段
- 第2章 尚古集成館と薩摩文化
- 第3章 日本一の弓のまち・都城
- 第4章 相撲ロマンの地 出雲・隠岐
- 第5章 沖縄の伝統文化・空手道
- 第6章 合気道開祖の生地・南紀田辺市
- 第7章 少林寺拳法発祥の地・多度津
- 第8章 なぎなたのまち伊丹市
- 第9章 湖西に響く銃剣道の気合い

あとがき

下巻目次

- 第10章 柔道の鬼を生んだ町・川尻
- 第11章 武術の源流 鹿島・香取
- 第12章 日置流弓術の地 近江・竜王町
- 第13章 緑の木曾谷にハッケヨイ！
- 第14章 沖縄伝統空手の今と未来
- 第15章 合気道黎明の地 北海道・白滝
- 第16章 讃岐の地に少林寺拳法総本部
- 第17章 なよ竹の心伝える会津
- 第18章 銃剣道の甲子園・岩沼市

あとがき

編集・発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3

ホームページ <https://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課までどうぞ！

TEL03(3216)5147

FAX03(3216)5158



日本武道館発行書籍のご案内

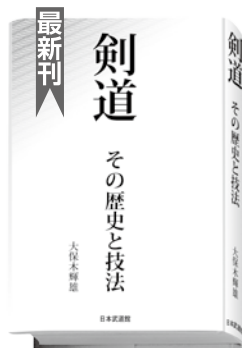


合気道 その歴史と技法

合気道道主 植芝 守央 著

世界 140 の国と地域、国内 2400 の道場・団体で愛好される合気道。開祖・植芝盛平翁、植芝吉祥丸二代道主、現道主と連絡と続く歴史の中で培われてきた合気道の理念、それを体現する稽古法、基本的な技法の解説……合気道の全てを網羅した決定版。

四六判・上製・362頁・定価 2,640 円



剣道 その歴史と技法

埼玉大学名誉教授 大保木輝雄 著

剣道の技法は個人の力量だけを問題にするのではなく、相手と自分の「間」を軸とした剣術へと展開した。本書では戦国末期から江戸時代初期を起点に、改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後 5 年の時を経て単行本化。

四六判・上製・516 頁・定価 2,640 円



剣道の文化誌

明治大学教授 長尾 進 著

剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いながら、わかりやすく紹介。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存じない方には、剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとしてご一読を。

四六判・上製・480 頁・定価 2,640 円



合気道に生きる

合気道九段 多田 宏 著

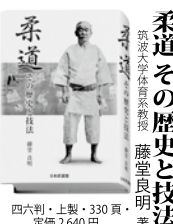
四六判・上製・402 頁・定価 2,640 円



大東流合気柔術 琢磨会

大東合気柔術会会長 森 忍 著

四六判・上製・238 頁・定価 2,200 円



柔道 その歴史と技法

筑波大学体育系教授 藤堂良明 著

四六判・上製・330 頁・定価 2,640 円



弓道 その歴史と技法

筑波大学名誉教授 松尾牧則 著

四六判・上製・484 頁・定価 2,640 円



相撲 その歴史と技法

東京大学名誉教授 新田 一郎 著

四六判・上製・422 頁・定価 2,640 円



空手道 その歴史と技法

小山正辰 和田光二 嘉手如徹 共著

四六判・上製・568 頁・定価 2,640 円

日本の元徳

皇學館大学特別招聘教授 菅野 覚明 著
四六判・上製・334 頁・定価 2,640 円

剣道で学び得たもの

中京大学名誉教授 林邦夫 著
四六判・上製・298 頁・定価 2,640 円

女子柔道の歴史と課題

筑波大学大学院准教授 山口 香 著
四六判・上製・412 頁・定価 2,640 円

役に立つ少年柔道指導法

講道館柔道七段 向井幹博 著
四六判・上製・350 頁・DVD 付・定価 2,640 円

刀剣の歴史と思想

筑波大学体育系教授 酒井利信 著
四六判・上製・346 頁・定価 2,640 円

高め合う剣道

筑波大学名誉教授 佐藤成明 著
四六判・上製・564 頁・定価 2,640 円

死ぬまで弓道

弓道教士七段 小牧佳世 著
四六判・上製・342 頁・定価 2,640 円

役に立つ少年剣道指導法

香川大学教授 山神真一 著
A5判・並製・256 頁・DVD 付・定価 2,640 円

武士道に学ぶ

皇學館大学特別招聘教授 菅野 覚明 著
四六判・上製・344 頁・定価 2,640 円

武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家 小笠原清忠 著
四六判・上製・278 頁・定価 2,640 円

唐手から空手へ

空手評論家 金城 裕 著
四六判・上製・454 頁・定価 2,640 円

学校武道の歴史を辿る

筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・354 頁・定価 2,640 円

武道子どもの心をはぐくむ

早稲田大学名誉教授 菅野 純 著
四六判・上製・410 頁・定価 2,640 円

武道・スポーツの真髄

スポーツドクター 辻 秀一 著
四六判・上製・248 頁・定価 2,200 円

小笠原流の伝書を読む

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家 小笠原清忠 著
四六判・上製・322 頁・定価 2,640 円

武の素描

埼玉大学名誉教授 大保木輝雄 著
四六判・上製・220 頁・定価 2,200 円

脳を活性化する

東邦大学名誉教授 有田秀穂 著
A5判・並製・346 頁・定価 1,760 円

幸せについて考えよう

元衆議院議員 樺樹舎倉主 小野晋也 著
四六判・上製・392 頁・定価 2,640 円

平法 天真正伝香取神道流

天真正伝香取神道流師範 大竹利典 著
四六判・上製・296 頁・定価 2,640 円

日本の武道

日本武道館 編
B5判・上製・箱入・526 頁・定価 4,400 円

マンガ・武道の偉人たち

漫画家 田代しんたろう 著
B5判・並製・302 頁・定価 1,100 円

マンガ・武道のすすめ

漫画家 田代しんたろう 著
B5判・並製・236 頁・定価 1,100 円

マンガ・日本武道風土記

漫画家 田代しんたろう 著
上巻 B5判・並製・248 頁・定価 1,100 円
下巻 B5判・並製・248 頁・定価 1,100 円

伝えたい日本のこころ

絵と文 画家・挿画家 中村麻美
F4判・カラー・上製・98 頁・定価 2,970 円



編集・発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <https://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL:03(3216)5147
FAX:03(3216)5158

